

項目	説明	
試料・情報の利用目的 及び 利用方法	研究課題名	遠位胆管癌手術症例における胆汁内 Enterococcus 検出の臨床的意義
	研究対象者	2012年10月から2022年7月までに当施設で遠位胆管癌に対して根治切除を受けた患者のうち包括同意を頂いている方。
	研究目的	遠位胆管癌に対する根治切除症例を対象に、術中に胆汁内から感染の指標となる細菌が同定された症例の臨床的意義を明らかにすることを目的とする。
	研究方法	臨床データを用いて周術期合併症頻度や予後因子について検討する。
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所などの情報を削り、容易に個人を特定できないように研究用の番号（識別コード）で管理します。個人と識別コードを照合できるようする対応表を作成しますが、パスワードロックや鍵をかけて厳重に保管し、院外へ提供することはありません。
	研究期間	西暦2026年1月26日～西暦2026年12月31日
利用する試料・ 情報の項目(チェック[X]が入った 項目を利用します)	利用又は提供を開始する時期	[×]総長が研究実施を許可した日 []西暦 年 月 日頃（研究の進捗によって前後いたします）
	[]試料:	[]血漿、[]血清、[]全血、[]末梢血から抽出したDNA、 []病理検体(具体的に記載: _____)、 []尿、[]糞便、[]唾液、[]胸水、[]腹水、[]脳脊髄液、 []毛髪、[]その他(具体的に記載: _____)
試料・情報を利 用する者の範囲	[×]情報:	[X]診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[X]年齢、[]生年月日、 [X]性別、[X]既往歴、[X]併存疾患、[X]外来日・入院日・退院日、[X]臨床検査値、[X]放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、 [X]臨床所見・経過(予後追跡データを含む)、[]ゲノムデータ、[]看護記録、[]その他(具体的に記載: _____)
	当センター研究責任者	所属・氏名 消化器外科肝胆膵 松下 直彦
	共同研究機関および責任者	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口	消化器外科(肝胆膵) 松下 直彦 045(520)2222 利用停止のお申し出は2026年3月31日までにお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります	